

# 学習習慣とドロップアウトに関する一考察

米山 あかね<sup>1</sup>

## 1. はじめに

eラーニングでは対面の学習に比べ、学生の受講中止率が高いと言われており<sup>1)</sup>、パソコンスキルが必須であることや、孤独な自宅学習になりがちで、わからないことや不安の即時的な解消が難しく、モチベーションの維持が難しい点が理由として挙げられる。また、「いつでも」「どこでも」受講は可能であるものの、ある決められた時間の範囲の中で、受講をいつするのかは自分で決め、時間を調整するという時間管理（自己調整）スキルや、学習習慣の形成も必要だと言える。

全ての授業をeラーニングで行っているサイバー大学においては、学生が受講する際のペースメーカーとなる「出席認定期間」が授業の各回で定められており、また受講が滞っている学生への働きかけを行うティーチングアシスタント（TA）とラーニングアドバイザー（LA）を配置するなど、学生が学習を継続しやすい環境が用意されている<sup>2)</sup>。これらの試みにより、初年次必修科目の「スタディスキル入門」において大半の学生は遅刻<sup>3)</sup>せずに受講することができているが、一部の学生は遅刻を繰り返し、受講を中止してしまう者もいる。

本稿では、「スタディスキル入門」を受講した新入生の学習履歴を基に学生を分類し、分類ごとの学習の継続率について報告を行う。

## 2. 学習の継続とドロップアウト

学生の学習継続を支援する上で重要な概念として「ドロップアウト」（受講中止）が挙げられるが、学生が学習を止めたと言えるのはどのタイミングなのか、その定義は研究者、あるいは発表によりまちまちである。大きくは「科目の中でのドロップアウト」と、「大学全体の学びの中でのドロップアウト」の2つが考えられるが、ある特定の科目の中で受講を中止したとしても、別の科目では受講を継続する場合や、逆に、ある特定の科目は受講を完了できたが、それ以降は完全に大学との接触をもたなくなる場合もあり得る。

サイバー大学では、学期が開始する前に、その学期に自分が受講したい科目の履修登録

---

<sup>1</sup> サイバー大学 IT 総合学部・助教、インストラクショナルデザイナー

を行う仕組みになっている。通常であれば、学生は履修登録を行った後で各科目の受講を行い、翌学期の履修登録を行うが、学生によっては翌学期の履修登録を行わない場合がある（図1）。本稿では、後者のことをドロップアウトと呼ぶこととする。一度このドロップアウトの状態になると、復帰することはかなり難しいと言える。

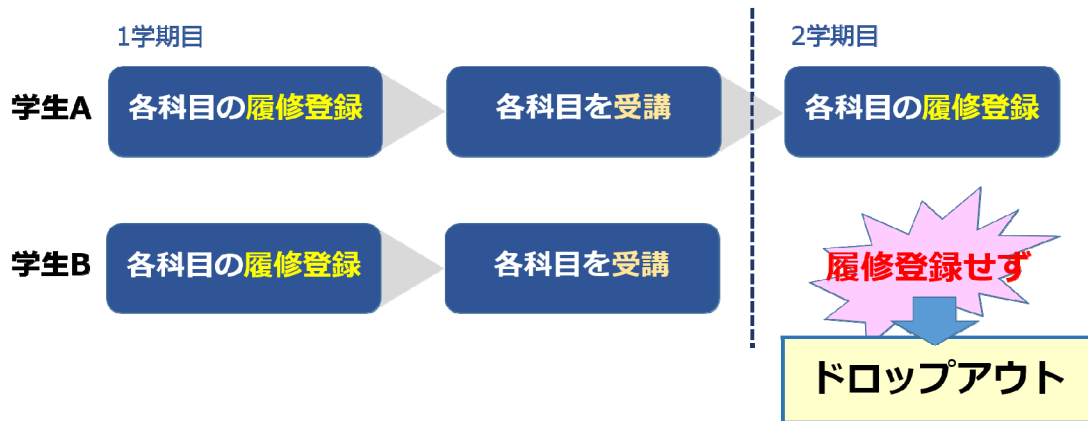


図1 サイバー大学での履修登録の流れと本稿でのドロップアウトの定義

### 3. データ収集と分析

2016年度春学期に初年次必修科目「スタディスキル入門」を履修した新生入生295人について、Learning Management System上のログに基づき、分類を行った。設定されている各授業回の締め切りを基準として、学生の課題の実施・提出時期との差分を集計し、Ward法を使ったクラスタ分析により、3つのグループ（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）に分けられた。グループⅠは前倒し受講型で、一度も遅刻や未受講は無い。グループⅡは一部遅刻や未受講があるものの、概ね締め切りの前後で受講を完了している。グループⅢは、前半は遅刻なしだが後半中断してしまった者や、前半に遅刻して後半に急激に追いついた者、全般的に遅刻や未受講の状態の者等となった。なお、人数が最も多いのはグループⅡで、185名である。

### 4. 結果

このグループⅠ～Ⅲについて、初学期に各学生が履修登録を行った科目の合格状況を表1にまとめた<sup>4)</sup>。グループⅠは全科目合格が9割を超えており、一部科目合格は1割程、全科目不合格は0であった。グループⅡはグループⅠよりも全科目合格の割合は少なく、一部科目合格が3割程を占める。グループⅢは全科目合格が1割程、一部科目合格は2割を超え、全科目不合格が6割を超えている。

## 学習習慣とドロップアウトに関する一考察

表1 グループ毎の初学期合格状況 (n=295)

	全科目合格	一部科目合格	全科目不合格
グループⅠ	90.2%	9.8%	0%
グループⅡ	69.2%	29.2%	1.6%
グループⅢ	8.2%	26.5%	65.3%

次に、グループⅠ～Ⅲについて、翌学期の履修登録状況<sup>5)</sup>を表2にまとめた。グループⅠ・Ⅱに関しては、9割以上が翌学期も履修を継続しているが、グループⅢが4割程の履修継続に留まり、6割程がドロップアウトという結果となった。

表2 グループ毎の翌学期履修登録状況 (n=295)

	履修	未履修
グループⅠ	98.4%	1.6%
グループⅡ	93.0%	7.0%
グループⅢ	40.8%	59.2%

## 5. まとめ

前倒し受講型のグループⅠが、初学期の合格率と、翌学期の履修継続率が高く、締め切り前後に受講するグループⅡがその次に良い結果となった。残りのグループⅢは全科目不合格、翌学期の未履修者が共に半数を超えている。

学生がドロップアウトする理由は、さまざまな原因があると考えられるが、今回の結果からは、グループⅠ・Ⅱという、ある程度学習習慣が身につけていると考えられる学生の方が良好な合格状況であり、また翌学期も継続して履修登録を行う傾向にあることが示された。

グループⅢに関しては、初学期に突発的な用事ができたなどの理由が当然ながら考えられるが、学習習慣が身につけていない学生には、より効果的な支援を行う必要があると考えられる。

### 注および参考文献

- 1) 松田岳士、原田満里子『eラーニングのためのメンタリング』東京電機大学出版局、2007.
- 2) 米山あかね「履修継続率向上のための学習履歴を基にした学習者分類にむけて」『eラーニング研究』第4号、2015、pp.33-36.

- 3) 遅刻とは、「出席認定期間」の締め切りを過ぎた後に、小テストの受験や、掲示板への投稿、レポートの提出等を行うことを指す。
- 4) 「一部科目合格」とは、履修登録した科目のうち、1科目以上不合格となった科目のある者で、全科目不合格となった者を除く。
- 5) 2016年度春学期に入学した学生の、2016年度秋学期の履修登録状況を意味する。